

平成30年7月豪雨災害に係る復旧復興支援の報告

1 経過

平成30年7月 5日 平成30年7月豪雨発生
平成30年7月13日 福岡県への災害支援寄附金の専用受付開始
平成31年3月31日 災害支援寄附の専用受付終了

【被災地航空写真】



2 寄附概要

受付開始：平成30年7月13日
受付終了：平成31年3月31日
寄附件数：201件
総寄附額：金 7,049,942円

3 被害状況

平成30年6月以降の台風第7号や梅雨前線の影響によって、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となり、全国各地で甚大な被害が発生しました。

福岡県でも7月5日の昼前から局地的に激しい雨が降り、行橋市と添田町では最大72時間降水量が観測史上1位、福岡市博多区と朝倉市では瞬間最大風速が観測史上1位を記録。死者3名、重傷者8名、軽傷者7名という人的被害のほか、建物被害も全壊・半壊・一部損壊が401件、床上・床下浸水被害が3,246件に及びました。また、道路の損壊や土砂災害なども県内各地で発生し、この台風・大雨による福岡県での被害額は394億円以上に及んでいます。

4 初動対応と今後の対応

平成30年7月 5日 災害警戒本部を設置。
平成30年7月 6日 災害対策本部を設置。
平成30年7月10日 小川知事が筑紫野市や久留米市の被害状況などを視察
平成30年7月11日 小川知事が北九州門司区の被害状況などを視察。
平成30年7月13日 災害復旧・復興推進本部へ移行。

福岡県では今回の豪雨災害に対し、災害復旧・復興推進本部を設置し、発生直後から関係機関と連携し、人命救助等の応急対応に全力を挙げて取り組むとともに被災地の状況や局面の変化に応じて、被災者の生活再建、商工・農林水産業の事業継続の支援、道路・河川などの公共土木施設等の復旧に対応しています。道路・河川・砂防の原形復旧については98%の箇所ですぐに着手し、61%が工事完了。未着手箇所についても準備が整い次第、順次工事に着手し、早期復旧を目指します。

令和元年11月25日に5回目となる災害復旧・復興推進会議を開催し、関係各部から、被災地の復旧・復興に係る取り組みの現状と今後の対応に関する報告が行われました。小川本部長は、「県庁内の横の連携をしっかりと取りながら、国、関係機関、市町村ともしっかり連携して、被災地のために一日も早い復旧・復興を成し遂げるという心構えでやっていただきたい」と述べました。

5 災害復旧・復興支援の取組み

災害発生後、最初の平成30年度9月議会補正予算において、豪雨災害復旧・復興に要する経費を計上して以降、令和元年度当初予算に至るまで災害復旧・復興支援のための取組みは継続して実施されており、今後も引き続き取り組んでいく所存です。

以下は災害発生から現在までの復旧・復興支援の取組の一例です。

①被災者の支援

- ・避難所運営等の応急救助を実施。
- ・県独自の災害見舞金や被災者生活再建支援金を支給

②商工業者・農林漁業者の支援

- ・県制度融資に緊急特別融資枠を創設。
- ・県内の宿泊料金の割引を実施し、被災地域の周遊旅行を支援。
- ・豪雨で被害を受けた農業の生産施設の復旧、機械の取得・修繕を支援。
- ・アユの卵やスイゼンジリの元種を放流し、水産資源を回復。

③公共土木施設等の復旧

- ・土石流やがけ崩れが発生した箇所に砂防ダム等を設置。
- ・浸水被害が発生した河川等の改良工事を実施。
- ・崩壊した林地に治山施設を設置。

道路復旧状況
桂川下秋月線（桂川町）



河川復旧状況
中元寺川（添田町）



急傾斜地復旧状況
奥田地区（北九州市）

